

講師

増本 由紀子

■ 学歴

1. 県立広島大学大学院総合学術研究科（修士課程） 修了

■ 学位

1. 2016年 修士（保健福祉学）

■ 研究分野

1. 保健学
2. 養護学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 児童生徒の健康
2. 学校保健
3. 養護教諭

■ 研究課題

1. 養護教諭の実践に基づく理論の構築について研究
2. 養護教諭の感染症に対する保健管理についての研究

■ 担当授業科目

1. 基礎看護技術（前期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
2. 看護学（後期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
3. 地域保健学Ⅰ（後期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
4. 教職実践演習（後期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
5. 看護臨床実習（通年）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
6. 養護実習（通年）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
7. 養護実習事前事後指導 4年生対象（三期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
8. 養護実習事前事後指導 3年生対象（三期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
9. 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科） 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【基礎看護技術】 |
| | 基礎看護技術について、養護教諭として必要な基礎的看護技術と、児童生徒に身体的健康問題が生じた場合の援助方法について、講義による解説と技術の演習を行った。写真や図、実物例を示し、医 |

	療機関や保健室で使用している機器を用いて実践的な演習を工夫した。看護技術の習得のため、確認問題、動画紹介、及び自主練習期間を別途に設け、また、実技試験による確認をおこなった。
2.	授業科目名【看護学】 看護学について、概論を解説し、養護教諭の力量としての看護観を培えるよう学校保健に関連して考察を加えた。症状別の看護を解説し、援助の根拠を持して学校での実践の基礎を学習した。現代的な健康課題に対応して図書や新聞記事等の探索、養護教諭として適切に医学情報の収集と整理、伝達するため代表的な疾患を題材にプレゼンテーション演習等のアクティブラーニングを実施した。
3.	授業科目名【地域保健学Ⅰ】 地域保健学について、概論を解説し、関連する養護教諭の職務と考察を加えた。外部講師を招き、主に母子保健活動と感染症の保健活動の実際を学んだ。ICT を活用して、模擬フィールドワークによる地域診断と、感染症の流行調査と分析、及びプレゼンテーションによる演習のアクティブラーニングを実施した。地域保健活動をふまえた学校保健活動について考察ができるよう工夫した。
4.	授業科目名【看護臨床実習】 看護臨床実習について、講義と演習では、看護学の知識と技術の実践化、さらに学校での実践の具現化を目指した。医療機関での看護実習では、医療と看護の実際を体験的に学び、看護の基本を習得し、学校保健の在り方や養護教諭の役割を見出せることを目指した。主体的に実習に取り組み、看護の理解が深まる指導助言を心掛け、さらに、個別及びグループワークによる学びの整理をおこなった。
5.	授業科目名【養護実習事前事後指導】 養護実習事前事後指導について、養護実習の準備を整え心構えができるとともに、実習の学びの整理を追求的におこなった。実習前は実習校での学校教育活動と保健室運営の参与に必要な知識と技術を身につけるよう演習を工夫した。実習後は体験を通して修得した事項や課題について学生相互の意見交換等をとおして省察的整理や定着化を図り、養護実習報告会で学びの整理をおこなった。
6.	授業科目名【養護実習】 養護実習について、養護教諭として必要な態度を養い、学校保健の推進と実践力の修得を目指した。実習計画は実習校の重点的な保健活動と期間中の行事等を考慮し、機会のない実習項目は、講話や資料を通じて学習できるよう事前、事後に指導した。実習中の質問等には、メールで迅速かつ詳細に対応した。学校訪問を行い、実習状況に応じた指導助言と質問等の対応をおこなった。
7.	授業科目名【教職実践演習】 教職実践演習について、教職課程での学修を振り返り、養護教諭としての使命感、保護者や地域への責任、信頼される学校づくり等の課題について考える機会となることを目指した。各演習テーマについて、グループワークや討議・発表といった演習形式で学習し、養護教諭の実践的技能と資質・能力の向上を目指した。理想の養護教諭像を検討し、教職課程の学びの整理をおこなった。
8.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 児童生徒の健康課題について、学生の興味のある題材を中心に先行研究等の文献検索を行い、ディスカッションをとおして考察を深めた。意欲的に研究に取り組めるよう、各自で考えた研究テーマを設定して、研究を支援した。学校での実践事例の紹介や文献の読み解きなど、児童生徒の健康課題と養護教諭の職務についての理解が深まるように取り組んだ。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2014 年 4 月～現在に至る	日本学校保健学会	
2.	2016 年 4 月～現在に至る	中国・四国学校保健学会	
3.	2017 年 4 月～現在に至る	日本不安症学会	
4.	2018 年 4 月～現在に至る	日本教育保健学会	
5.	2018 年 4 月～現在に至る	全国養護教諭サークル研究協議会	
6.	2019 年 4 月～現在に至る	日本公衆衛生学会	
7.	2019 年 4 月～現在に至る	日本疫学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2025.1	Class-specific school closures for seasonal influenza: optimizing timing and duration to prevent disease spread and minimize educational losses	共	PLOS ONE	①季節性インフルエンザによる学級閉鎖について、感染症数理モデルを用いたシミュレーション研究を行い、学級閉鎖の効果を定量的に示した。学級閉鎖による児童生徒への影響を最小にするための最適なタイミングと期間について検討した。 ②共著者名：Yukiko Masumoto, Hiromi Kawasaki, Ryota Matsuyama, Miwako Tsunematsu, Masayuki Kakehashi ③DOI: 10.1371/journal.pone.0317017
2.	2024.10	Outdoor Learning Activities in Early Childhood Education:	共	Journal of Sport Science and Education 9(2)	①学童期における屋外学習の効果と課題を明らかにするため、文献検討により分析した。屋外学習と、学童の身体的、認知的、社会的、及び情緒的発達に貢献する認識の変化、さらに限られた資源や環境的制約、教育者の視点の違いについ

		Exploring Benefits and Challenges Through Bibliometric Analysis			て検討した。 ②共著者名：Nice Maylani Asrila, Ni Wayan, Surya Mahayanti, Ni Komang, Arie Suwastini, I Wayan Artanayasa, <u>Yukiko Masumoto</u> , Fumiko Kagiura ③（p. 83-93）
3.	2024.6	Decisions and Influential Factors Regarding Class-Specific School Closures Against Seasonal Influenza Outbreak	共	Cureus	①小学校の学級閉鎖の実際について、調査結果から学校での学級閉鎖の判断に關与する要因を検討した。季節性インフルエンザにおける学級閉鎖の開始のタイミング、期間、判断時の考慮事項、及び養護教諭の考え等についてまとめた。閉鎖時の意思決定に必要な要因や、実施による児童への影響について検討した。 ②共著者名：Yukiko Masumoto, Hiromi Kawasaki, Miwako Tsunematsu, Ryota Matsuyama, Masayuki Kakehashi ③DOI：10.7759/cureus.62394
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2024.10	小学校における季節性インフルエンザ流行時の学級閉鎖の実際	共	第 83 回日本公衆衛生学会総会（於 札幌コンベンションセンター）	①季節性インフルエンザによる小学校の学級閉鎖の実際についての調査結果から、学級閉鎖の実施状況と養護教諭の保健活動、及び児童への影響等について要点をまとめた。 ②共同発表者名：増本由紀子、川崎裕美、恒松美輪子、松山亮太、梯 正之 ③日本公衆衛生学会総会抄録集 83 回（p. 421）
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究

	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	感染症の流行予測に基づく 養護教諭の保健管理モデル の展開	日本学術振興会科学 研究費助成事業 基盤研究(C)	○ 増本由紀子 (川崎裕美) (恒松美輪子)	4,680,000
2.				
3.				

(2) 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	学生個人情報保護委員会	委員
2.	2024 年 4 月～現在に至る	ハラスメント防止委員会	委員
3.	2023 年 4 月～現在に至る	アドバイザー (福祉学科 1 年生・2 年生)	